

### 本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

#### 学校の現状

##### 「文武両道」、「自主自律」の充実

伝統校として、進学実績や部活動の活躍に対する地域社会からの期待は大きく、文武両道と自主自律を標榜する教育活動のもとで、多くの生徒がその期待にこたえている。

##### 大学進学に対応できる学力の育成

生徒の志望実現のため、深い学びを基盤とした授業実践や東北大レベルを意識した授業を展開するとともに、3年間を見通した学力向上策を学校全体で組織的に進めている。

##### 国際的な活躍を目指すグローバル教育

将来グローバル社会でリーダーシップを発揮できるよう、視野を広げる多様な経験の機会を設けるとともに、他者と協働しながら課題解決に取り組むことのできる力の育成を図っている。

##### 人間形成の視点に立ったキャリア教育と主権者教育

現代社会の課題に自らの在り方生き方を重ねながら進路を考えさせるとともに、主権者教育を通して諸課題に対する意見を主張できる生徒を育成している。

#### 学校の課題

##### 自主自律の精神と態度の育成

学校行事等において、より高いレベルでの達成を目指そうとする意欲を喚起するとともに、あらゆる教育活動において、生徒の主体性が発揮される場面を設定し、自主自律の精神の育成に一層努める必要がある。

##### 時代に合った教育課程の設定

学習指導、進路指導、生徒指導等の各種教員研修を一層充実させ、学習指導要領改訂や高大接続等の教育改革に的確に対応する必要がある。時代のニーズや大学入試の動向を踏まえたカリキュラムの最適化を継続的に行わなければならない。

##### 異文化に対する興味・関心の昂揚

現在、県教育委員会や本校同窓会主催の海外派遣交流はあるものの、留学希望者や海外交流生の受け入れが少ないのが現状である。異文化への関心を高め、幅広い知識と教養を身に付けさせるための教育活動を推進する必要がある。

##### キャリア教育と主権者教育のより一層の充実

社会のリーダーとして活躍できる人間を育てるため、すべての教育活動を通して他者との共感性を育み、また、社会への関心を高め、諸課題を「自分ごと」として受け止め、知恵や価値を創造しながら解決に取り組もうとする力を育成することが重要である。

#### 学校を取り巻く将来の状況の予測

国内（特に県内）においては人口減少や少子高齢化による生産年齢人口の減少、国際的には環境問題やエネルギー問題、格差の拡大等、人類共通の課題もより顕在化することが予測される。産業構造の変化に伴い、必要な知識や技術も時々刻々と変わり、更には社会のイノベーションやICT（情報通信技術）等の進歩により、現時点では予想できない新たな職業が生まれる可能性がある。このような状況の中で、学校に求められるものも多様化している。

#### 目指す生徒像及び学校像

1 高い志を育て、自主自律の精神を鍛え、高い次元での文武両道の実現を目指す

2 豊かな人間性を育むとともに、グローバルな視野で考え行動できる能力を伸ばし、将来、社会の多方面でリーダーとして活躍できる人間を育成する

3 社会的自立や自らの社会的使命を追求する意識を育成する

4 教育改革や県の教育施策を正確かつ迅速に把握し、教育環境を整えつつ教育活動の活性化、特色化をより一層図るとともに、教育活動を常に検証し、発信する

#### 5年間を通しての具体的な目標

自主自律の精神と人間性の涵養、品性の陶冶を図る

進路において第一志望を達成するために、高い次元で努力し続ける生徒を育成する

部活動において、全国大会出場など、一層の成果を目指す

生徒会行事、学校行事等の一層の充実を図る

世界規模の課題に対応する態度を育成する

異文化や国際交流に対する意識の醸成を促す

未来を担う責任と主権者としての権利の理解を図る

課題解決のために知恵や価値を創造しながら主体的に取り組む力を育成する

学校評価活動や教員研修（授業研究会等）の充実を図る

保護者や地域社会、同窓会との連携を強化する

世界や日本、秋田の課題の解決に取り組む人間を育てる学校  
課題を担うために必要な力の基盤をつくることを目指す学校  
現在の目標のその先を思い描けるような見晴らしのよい学校

## 具体的な取組等

### 1 品性の陶冶 —おのれを修めて世のためつくす（校歌より）—

#### キャリア教育の観点を踏まえ、「自ら考え行動できる生徒」を育てる

- ①進路指導を通して、将来の在り方や生き方を考え、自己の将来設計ができるようにする。
- ②外部講師による講話などにより、「自己実現」や「社会貢献」についての考察を深めさせる。
- ③学校行事を通し、他者とコミュニケーションを図り、協力・協働して物事に取り組みさせる。
- ④社会の一員であることの自覚を深めるため、ボランティア活動への積極的な参加を促す。

#### グローバルリーダーの育成

- ①生徒の言語能力を高めながら異文化理解を深め、国際的な視野や幅広い教養を身に付けさせるため、アメリカ研修「北雄の翼」や海外留学等、国際交流を推進する。
- ②海外で活躍している各界のリーダーを招き、講演会等を通して、グローバル感覚を養い、自分はその社会のために何ができるのかを深く考えさせる。

### 2 学力の充実 —自ら進路達成や自己実現を図るために—

#### 授業等の充実

- ①将来、社会において必要とされる資質・能力を身に付けさせるために、能動的に学習に取り組む方法を体得させる。
- ②研究授業における事前研究や授業後の検討会等、組織的な授業研究を進める。日常的に授業参観を行うことで互いに授業力の向上を目指す。
- ③難関大学に合格できるレベルを教員が明確に認識し、日々の授業実践に臨む。
- ④これまで行ってきた難関大学の入試問題を分析、研究し、如月講座など本校独自の大学別二次対策の指導に活かす。
- ⑤英語検定等の資格取得、科学甲子園やエコノミクス甲子園、数学・科学オリンピック等への積極的な参加を働き掛ける。

#### 主体的に進路実現に取り組む態度の育成

- ①LHRや面談等を通して、学ぶことや働くことの意義を理解させ、自己の進路や生き方を多角的に考察する態度を育む。
- ②教科担当や学年主任などクラス担任以外の教員も面談を行い、様々な角度からの指導を行う。
- ③進路資料「北雄」と卒業生の体験記「北雄（みちしるべ）」を有効に活用するとともに、各学年において進路通信「羅針盤」を定期的に発行して進路に対する意識を高める。
- ④東北大、東大等のオープンキャンパスに積極的に参加し、進路目標の設定と明確化を図る。

#### 卒業生や大学教員等外部人材の活用

- ①社会で活躍している卒業生や著名人を招いて講演会や座談会を行い、将来に対する関心を深め、主体的に進路達成や自己実現に取り組む態度を育む。
- ②大学教員や予備校講師を招へいして、進路や学習方法、課題研究等への視野を広げ、考察を深める。

#### 新しい大学入試に対応する教育課程の編成

- ①学習指導要領の改訂や日々変化する大学入試制度を常に視野に入れて、その対策を十分に行う。
- ②受験科目等の最新の情報を十分に検討し、教育課程を編成する。

#### 学校全体での情報の共有と他校との情報交換

- ①全職員による進路検討会、情報交換会、分析会などの内容の充実を図りながら、学校全体で情報を共有し、職員間の共通理解を深める。
- ②秋田県進学12高校会議や北東北五校進学連絡協議会、東北地区大学進学六校連絡協議会での情報交換を積極的に進めるとともに県全体に情報を発信する。

### 3 心身の錬磨 —学校生活を通し、心身のたくましさを培うために—

すべての教育活動において、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、心身ともに健全でたくましい人間を育成する

「敬天週間\*」を通して、社会的責任や規律、自律への意識を高める

生徒数の減少に対応して部活動の精選を図る。運動部は常に全国大会出場を目指し、文化部も各種コンクールで全国大会入賞を目指す。

生徒会行事や学校行事を更に充実させ、地域社会のみならず、県内外に広く発信する。集団での活動を通して、コミュニケーション能力やリーダーとしての力の向上を図る。

\*敬天週間：挨拶やマナー、交通安全の指導週間 年4回実施

### 4 キャリア教育の推進 —わが生わが世の天職いかに（校歌より）—

#### キャリア教育推進委員会の活動

- ①あらゆる教育活動において、人間性を高める環境づくりに努めるとともに、社会的・職業的自立に必要な基礎的・汎用的能力を高める。
- ②生徒の自己理解と職業への関心を深め、生涯にわたって学び続ける態度を育成する。

#### キャリア教育を意識した具体的な取組

- ①授業におけるキャリア教育の一層の充実
  - ・日々の授業の中で、キャリア教育の視点から個々の生徒の進路志望に応じた適切な支援を行うとともに、生徒が主体的に取り組む態度の育成を目指して、授業の充実を図る。
  - ・教育活動全体において計画的、系統的にキャリア教育を実践するとともに、授業改善等の校内研修を通して、キャリア教育の充実に取り組む。
- ②北雄合宿
  - ・1年生を対象に実施する。学習の進め方の体得や学級・学年集団という意識の形成を図るとともに、各界で活躍している卒業生等の講演を傾聴して職業観の育成を図る。さらに、秋高生としての高校三年間の指針を探らせる。
- ③佐々木穀杯—知の探究コンテスト—
  - ・生徒の課題発見能力や課題解決能力等の更なる向上を図るため、1、2年生を対象として、グループによる課題への協働的な探究活動を行う。
- ④読書活動の推進
  - ・優れた文章に親しむことで、多様な視点や広い視野を獲得し、知識と教養を深め、思考力や判断力、表現力等の育成を図る。また、授業等において積極的に図書館を活用する。
- ⑤PTAや地域、同窓会等の社会人講師の活用
  - ・望ましい生き方や職業観、勤労観を身に付けさせるため、積極的に社会人講師を招へいする。